

事業コード	02030308	政策コード	02	政策名	融合と成長の新農林水産ビジネス創出
事業名	革新技術による産地化プロジェクト事業	施策コード	03	施策名	需要創造力と訴求力を兼ね備えた産地づくり
		指標コード	03	施策目標(指標)名	産地の強みを伝える新技術の普及・定着
部局名	農林水産部	課室名	農林政策課	班名	研究推進班
				(tel)	1761
				担当課長名	佐藤博
				担当者名	阿部博安

評価対象事業(計画)の内容

事業年度 平成25年度 ~ 平成27年度

1. 事業立案の背景(施策目標の達成のために今なぜこの事業が必要なのか)
 現在、試験研究機関では新たな市場を開拓できる可能性のある研究成果等を複数持っており、これらを早期に現地へ普及させて他県に先駆け市場優位性を確保していくことが課題となっている。これらの研究成果は、通常の技術移転の手法では広く普及し難い高度な技術ではあるが、試験研究機関が直接現地で技術実証することで、技術の円滑かつ着実な移転が図られ、マーケティング等も併せて実施することで、本県農水産物のマーケット対応力を大きく前進させることができる。

3. 事業目的(どういう状態にしたいのか)
 ①種なしスイカの高度な栽培技術を早期に生産現場へ技術移転するとともに、最適な販売コンセプトを見出す。②スマートフレッシュ処理技術に対応した栽培管理技術を早期に生産現場へ技術移転するとともに、「夏も新鮮で美味しいリング」の先進県としての地位を確立する。③秋田オリジナルワカメの生産を拡大し、市場で一定のシェアを確保するとともに加工品を開発する。
 (重点施策推進方針との関係) ● 重点事業として要望 ○ その他事業として要望

2. 住民ニーズの状況
 ①ニーズを把握した対象
 受益者 一般県民 (時期: H24 年 08 月)
 ②ニーズの把握の方法
 アンケート調査 各種委員会及び審議会 ヒアリング インターネット
 その他の手法 (具体的に)
 ③ニーズの具体的内容

4. 目的達成のための方法
 ①事業の実施主体 県
 ②事業の対象者・団体 JAすいか部会、夏りんご販売研究会(仮称)、漁業者、首都圏量販店、水産物加工業者など
 ③達成のための手段
 実証圃の設置。技術研修会の開催。市場・消費者評価のリーサーチの実施。オリジナルワカメ種苗の大量培養、本格的な実証養殖。ワカメ加工技術の実証など

①首都圏市場関係者から日持ちのする種なしスイカを出荷してほしいとの要望がある。②昨年春から夏にかけて高島屋日本橋店「八百一」、西武秋田店「南国屋」等で行ったリングの試食販売が好評で、バイヤー等から更に出荷量を増やしてほしいとの要望がある。③昨年春に県内スーパーで行った試食販売では、三陸産に比べて柔らかくしゃぶしゃぶで食べられるオリジナルワカメが好評で更に出荷量を増やして欲しいとの要望がある。

④比較した代替手段及び選択した手段の有効性
 代替手段無し

⑥把握してない場合の理由及び今後の方針

①理由

②今後の方針

5. 事業の全体計画及び財源 単位(千円)

順位	事業内訳	左の説明	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	30年度	全体(最終)計画
01	革新技術による産地化プロジェクト事業	試験研究機関が持つ優れた研究成果を早期に現地へ普及させ、他県に先駆け市場優位性を確保する。	4,980	4,980	4,980				14,940
02	市町村等との協働による新ビジネス研究事業	試験研究機関と市町村等が協働で、新ビジネスにつながる技術の実証展示と普及拡大を推進し、地域の特性を活かしたビジネスの展開を支援する。	1,997	1,997	1,997				5,991
財源内訳			6,977	6,977	6,977				20,931
国庫補助金									
県 債									
そ の 他			6,977	6,977	6,977				20,931
農林漁業振興臨時対策基金									
一 般 財 源			0	0	0				0

6. 事業の効果把握するための手法及び効果の見込み

事業の期待される成果 秋田県産農水産物が消費者・実需者から注目されて新分野の市場を確立し、県内各地で農水産物を基盤に、生産→加工→流通販売まで一貫したビジネスが展開されている。

指標名	産地に展開する新規キーテック数							指標の種類
指標式	新規キーテック数							●成果指標 ○業績指標
①年度別の目標値（見込まれる成果による指標）								
指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	最終年度
目標a		0	3	3	3			
実績b	②データ等の出典							
東北	農林政策課							
全国								
③把握する時期 ●当該年度中03月 ○翌年度 月 ○翌々年度 月								

指標名	キーテック対象品目を導入している経営体数							指標の種類
指標式	キーテック対象品目を導入している経営体の実数							●成果指標 ○業績指標
①年度別の目標値（見込まれる成果による指標）								
指標	23年度	24年度	25年度	26年度	27年度	28年度	29年度	最終年度
目標a		0	10	25	50			
実績b	②データ等の出典							
東北	JA資料、生産者組織資料							
全国								
③把握する時期 ○当該年度中 月 ●翌年度04月 ○翌々年度 月								

④指標を設定することができない場合の効果の把握方法

①指標を設定することが出来ない理由

②見込まれる効果及び具体的な把握方法(データの出典含む)

事業の必要性

現状の課題及び施策目的に照らした事業の必要性
 本県の主力品目において、早急に現地へ普及させたい研究成果を現地へ普及させるためには、栽培に関する複数の技術（防除、品質、収量向上、省力化など）と販売対策（マーケティング）、経営評価をセットで実施する本事業を実施することが必要である。

住民ニーズに照らした事業の必要性
 日持ちの良い種なしスイカ、夏季も新鮮でおいしいリンゴ、生食用に適するワカメは、昨年度行った試食販売等で消費者等から望まれている。また、新たなキーテックに取り組む意欲のある生産者組織がある。

事業の県関与の必要性
 法令・条例上の義務 内部管理事務 県でなければ実施できないもの
 民間・市町村で実施可能であるが、県が関与する必要性が認められるもの

産地に展開するキーテックのほとんどは県が開発したものであり、県でなければ実施できない。

政策評価委員会意見		重点事業の適合及び指標・目標値の適合性判定
○重点事業		○その他